

(3) 施策の進捗状況

小牧市総合交通計画で定めた施策の進捗状況をまとめます。

① 公共交通計画

<事業期間の凡例>

- ・ 検討期間:
- ・ 実施期間:
- ・ 検討+実施期間:

今後、事業開始あるいは事業化に向け、内部での検討や事前調整等を行っていく期間
 事業が開始され実施する期間または実施に向けた調査設計や工事等を行っていく期間
 検討期間から実施機関へ移行する時期が現時点で未定であるもの

<達成状況の凡例>

- ◎: 小牧市総合交通計画で定めた事業内容のとおり、事業を実施した。
- : 小牧市総合交通計画で定めた事業内容を一部変更して、実施した。または継続して実施中である。
- △: 小牧市総合交通計画で定めた事業内容のとおり、事業を実施できていない。

基本目標	基本方針	施策方針	事業内容	実施主体	事業期間		達成状況	実施状況	未達成の事項	今後の取り組み
					前期 (~H27)	後期 (H28~H32)				
1-① 2-②	> 鉄道を軸とする公共交通ネットワークの形成 > バス交通による東西公共交通軸の形成 > 公共交通の役割分担とサービス水準の設定	▼ 南北方向の公共交通軸となる鉄道の利便性向上に努め、需要を創出しつつ、公共交通軸としての機能強化を図る。	・ 名鉄小牧線全線複線化	交通事業者			△	需要を見極め必要に応じて検討。	名鉄小牧線全線の複線化は達成していない。	需要を見極め必要に応じて検討。
			・ 地下鉄上飯田線延伸（平安通以南）実現へ向けた働きかけ	小牧市			○	名鉄小牧線全線複線化と名古屋市営地下鉄上飯田線早期建設促進期成同盟会及び尾北地区広域交通網対策連絡協議会において関係機関に要望。	地下鉄上飯田線延伸（平安通以南）が実現していない。	関係機関に要望。
		▼ 東西公共交通軸や基幹バスについては、高い運行頻度や速達性・定時性の確保、高い品質のサービス水準の確保を図る。	・ 広域的なバス運行の実施・強化（都市間高速バス名古屋・桃花台線の増便等）	交通事業者 小牧市			○	ピーチバス（小牧市役所前～小牧駅前間）を増便。公共交通利用促進協議会と連携し、時刻表を配布するなど利用促進を図った。	ピーチバス以外の路線バスの増便等は達成できていない。	利用者ニーズに合わせた運行本数の設定を行う。利用促進を継続的に実施する。
			・ ICカードの導入促進	交通事業者			○	名鉄バス路線は、全路線でICカードに対応。	名鉄バス路線以外の路線ではICカードを導入できていない。	名鉄バス路線以外の路線についても、ICカードの導入を検討。
			・ 快適な待合い環境の整備（ハイグレードなバス停整備、バスロケーションシステムの導入等）	交通事業者 小牧市			○	名鉄バス「桃花台センター」バス停（H26）、「小木」バス停（H26、H27）、こまき巡回バス「牛屋」バス停（H28）、「織田井戸公園前」バス停（H28）等を改修。名鉄バス路線にバスロケーションシステムを導入（春日井営業所管内：H24、一宮営業所管内：H25）。	未整備のバス停が存在する。またバスロケーションシステムは名鉄バス路線のみに導入している。	需要を見極め必要に応じてバス停環境の整備を検討。あおい交通及びこまき巡回バスへのバスロケーションシステムの導入を検討。
		▼ 路線バスを含む地域公共交通ネットワーク全体の視点から、相互補完の関係の中で利用者にとって利便性の高い公共交通ネットワークの形成を図る。	・ 近隣市町と連携したバス運行の実施（藤島地区と名鉄犬山線駅へのバス路線の整備）	小牧市			◎	名鉄バス「間内・岩倉線」の運行（H26.8～）。	達成済。	利用者ニーズを踏まえた継続運行。
			・ バス路線の機能分類及び機能に応じたサービスの確保	交通事業者 小牧市			○	路線機能に応じこまき巡回バスの路線再編を実施。	継続的な実施が必要。	地域公共交通網形成計画にて引き続き検討。
1-④	> 公共交通による企業等へのアクセス利便性の向上を図る。	▼ 共同送迎バスの可能性を検討し、工業団地等へのバスサービスの提供を図る。 ▼ 工業団地等への路線バスの延長を図る。	・ 路線バス見直し	交通事業者 小牧市			○	ピーチバス（小牧市役所前～小牧駅前間）の増便、こまき巡回バスの再編。	ピーチバスの増便に留まっている。	利用者ニーズを踏まえた継続運行。

<事業期間の凡例>

- ・ 検討期間 :
- 今後、事業開始あるいは事業化に向け、内部での検討や事前調整等を行っていく期間
- ・ 実施期間 :
- 事業が開始され実施する期間または実施に向けた調査設計や工事等を行っていく期間
- ・ 検討+実施期間 :
- 検討期間から実施機関へ移行する時期が現時点で未定であるもの

<達成状況の凡例>

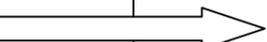
- ◎ : 小牧市総合交通計画で定めた事業内容のとおり、事業を実施した。
- : 小牧市総合交通計画で定めた事業内容を一部変更して、実施した。または継続して実施中である。
- △ : 小牧市総合交通計画で定めた事業内容のとおり、事業を実施できていない。

基本目標	基本方針	施策方針	事業内容	実施主体	事業期間		達成状況	実施状況	未達成の事項	今後の取り組み
					前期 (~H27)	後期 (H28~H32)				
2-③ 3-①	>ユニバーサルデザインを取り入れた交通環境の形成、バリアフリー化施策の促進 >巡回バス等によるシビルミニマムとしての効率の良い交通サービスの提供	▼バス車両のバリアフリー化を図る。	・ノンステップバス等の低床式車両の導入促進	交通事業者			◎	こまき巡回バスへのバリアフリー車両の導入。	達成済。	バリアフリー車両での継続運行。
		▼交通空白地域の解消に向け、巡回バスの路線整理を進める。	・舟津地区、久保一色北部地区、岩崎原地区、多気地区、高根地区等の交通空白地域の解消	小牧市			◎	こまき巡回バスの路線再編により対応 (H27.4~及びH28.4~)。	達成済。	利用者ニーズを踏まえた継続運行。
		▼地域住民の参画による、地域住民の生活ニーズに応じた巡回バスの見直し及び評価を実施する。	・交通空白地域での地域交通の確保に向けた住民活動に対する支援	小牧市			◎	路線再編において地域懇談会を開催。	達成済。	利用者ニーズを踏まえた継続運行。
			・バスによるサービスが困難な地域における乗合タクシー等の導入	小牧市			○	デマンド交通実証実験運行 (H25.8~H26.7)。 こまき巡回バスの再編 (H28.4~)。	達成済。	利用者ニーズを踏まえた交通手段を検討。
3-②	>地域の特性に応じた交通ネットワークとまちづくりが一体となった交通施設整備の推進	▼交通事業者、行政、住民が三位一体となった協働体制の確立を図る。	・地域公共交通会議の開催	小牧市 小牧市民			◎	地域公共交通会議の継続開催 (H19.1~)。	達成済。	継続的に開催。
		▼地域住民の参画による、デマンド運行等地域独自の交通システムの試験的導入を実施する。	・デマンド運行の試行				◎	デマンド交通実証実験運行 (H25.8~H26.7)。	達成済。	利用者ニーズを踏まえた交通手段を検討。

<事業期間の凡例>
 ・検討期間：  今後、事業開始あるいは事業化に向け、内部での検討や事前調整等を行っていく期間
 ・実施期間：  事業が開始され実施する期間または実施に向けた調査設計や工事等を行っていく期間
 ・検討+実施期間：  検討期間から実施機関へ移行する時期が現時点で未定であるもの

<達成状況の凡例>
 ◎：小牧市総合交通計画で定めた事業内容のとおり、事業を実施した。
 ○：小牧市総合交通計画で定めた事業内容を一部変更して、実施した。または継続して実施中である。
 △：小牧市総合交通計画で定めた事業内容のとおり、事業を実施できていない。

② 交通結節点計画

基本目標	基本方針	施策方針	事業内容	実施主体	事業期間		達成状況	実施状況	未達成の事項	今後の取り組み
					前期 (~H27)	後期 (H28~H32)				
1-③	> 地区拠点を中心とする公共交通ネットワークの形成と歩行者・自転車ネットワークの形成 > 地区拠点における乗り継ぎ機能の強化	▼小牧駅においてトランジットセンターの整備を進める。(異なる交通機関相互の円滑な乗り継ぎ機能を有した交通結節点としての機能強化を図る。)	・小牧駅西駅前広場整備等の駅周辺の再整備	小牧市			○	小牧駅周辺の利用実態調査を実施し (H26.9)、駅の交通結節点としての利用状況や施設需要などの推計を行い、整備に関する市民アンケート調査を実施した (H27.3)。	小牧駅周辺における整備。	新小牧市立図書館建設審議会での議論を踏まえ、駅利用者への影響や経済性等を考慮し、関係機関との協議を行いながら整備の検討を行う。
			・小牧駅周辺における駐車場整備 (A街区開発にあわせた駐車場等の整備)	小牧市			○			
		▼桃花台地区においてトランジットセンターの整備を進める。(高速バスや基幹バスとの結節点としての機能強化を図る。)	・桃花台線旧車両基地における中央道高速バスの利便性向上等	愛知県 小牧市			◎	中央道高速バス利用者の送迎用として、中央道桃花台バス停前ロータリー、自転車等駐車場及びパークアンドライド駐車場を整備した (H25.3)。中央道桃花台バス停前ロータリー内にこまき巡回バス停留場を設置した (H28.4)。	整備済。	継続的な利用促進を進める。
		▼名鉄小牧線各駅 (小牧駅を除く) において交通結節機能の強化を図る。	・田県神社前駅における駅前広場の整備	小牧市			◎	H29.3 の供用開始を目標に工事の進捗を図る。	整備済 (本計画策定時)。	継続的な利用促進を進める。
			・小牧口駅付近へのバス停の新設	交通事業者 小牧市			◎	こまき巡回バスの路線再編により対応 (H27.4~)。	整備済。	継続的に利用状況を把握。
			・駅における駐輪場の整備 (間内駅、小牧口駅、小牧原駅、味岡駅、田県神社前駅)	小牧市			○	間内駅自転車等駐車場の増設 (H28.7)。	整備済。	小牧口駅自転車等駐車場の再整備を図る。
		▼乗り継ぎのシームレス化を図る。	・鉄道でのICカードの導入	交通事業者			◎	名鉄小牧線においてICカードを導入 (H23.2~)。	達成済。	継続的に利用状況を把握。
2-③	>ユニバーサルデザインを取り入れた交通環境の形成、バリアフリー化施策の促進	▼需要を見極めつつ、交通結節点のバリアフリー化を図る。	・味岡駅 (高架駅)、小牧原駅 (高架駅)、小牧口駅 (半地下駅) のバリアフリー化の促進	交通事業者 小牧市			○	味岡駅のバリアフリー化 (H27.3)。	未整備の駅が存在。	小牧原駅、小牧口駅のバリアフリー化の促進。

<事業期間の凡例>
 ・検討期間：⇨
 今後、事業開始あるいは事業化に向け、内部での検討や事前調整等を行っていく期間
 ・実施期間：⇨
 事業が開始され実施する期間または実施に向けた調査設計や工事等を行っていく期間
 ・検討+実施期間：⇨
 検討期間から実施機関へ移行する時期が現時点で未定であるもの

<達成状況の凡例>
 ◎：小牧市総合交通計画で定めた事業内容のとおり、事業を実施した。
 ○：小牧市総合交通計画で定めた事業内容を一部変更して、実施した。または継続して実施中である。
 △：小牧市総合交通計画で定めた事業内容のとおり、事業を実施できていない。

③ 交通需要管理計画

基本目標	基本方針	施策方針	事業内容	実施主体	事業期間		達成状況	実施状況	未達成の事項とその理由	今後の取り組み	
					前期 (~H27)	後期 (H28~H32)					
2-①	➤モビリティ・マネジメントによる公共交通等への利用転換施策への展開	▼自発的な行動の変化を導くため、コミュニケーションを中心とした交通施策であるモビリティ・マネジメントを展開していく。	・企業・職場を対象にしたモビリティ・マネジメントの実施	小牧市 市内企業	⇨		△	企業・職場を対象にしたモビリティ・マネジメントは実施されていない。	未実施。	今後の実施を検討。	
			・住民を対象にしたモビリティ・マネジメントの実施	小牧市 小牧市民	⇨		○	公共交通利用促進協議会が主体となってバスの乗り方教室を開催(H27~)。まちづくり出前講座を開催し、公共交通をPR(H27)。	実施済。	継続的に事業を実施。	
			・学校教育におけるモビリティ・マネジメントの実施	小牧市 小牧市民	⇨		△	学校教育におけるモビリティ・マネジメントは実施されていない。	未実施。	今後の実施を検討。	
		▼公共交通の利用促進に向け、駅・企業間等シャトルバスを導入する。	・駅と企業等とのシャトルバス(企業送迎バス、スクールバス)の共同運行等に向けた調整	市内企業 小牧市	⇨		○	市内企業のうち、3企業にて送迎バスを導入済み。市内の4学校にて、スクールバスを導入済み。	共同運行に向けた調整が図られていない。	共同運行の実施も視野に入れた検討。	
			▼情報提供をはじめ公共交通の利用促進に向けた各種施策を展開する。	・利用者目線によるわかりやすい情報の提供	交通事業者 小牧市	⇨		○	公共交通利用促進協議会と連携した中央道桃花台バス停の時刻表を掲載(H25~)。公共交通マップの作成(H26~)。	その他施策についても検討が必要。	継続的な事業実施と新規事業の実施を検討。
				・利用促進を誘導する施策(運賃割引制度等)の展開	交通事業者 小牧市	⇨		○	こまき巡回バス 65歳以上無料化(H23.10~)。	その他施策についても検討が必要。	継続的な事業実施と新規事業の実施を検討。
		▼交通需要の低減・平準化に向け、時差出勤やフレックスタイムの導入等を促す。	・バスの愛着を高める方策の展開	交通事業者 小牧市	⇨		◎	こまき巡回バス・ピーチバス車内に保育園児の絵画を掲載(H27)。こまき巡回バスに児童・生徒の絵画をラッピング(H28)。	実施済。	継続的に事業を実施。	
				小牧市 市内企業	⇨		○	市内企業のうち、9企業にてフレックスタイムを導入済み。	その他企業での導入が必要。	継続的に事業を実施。	

2. 上位関連計画と地域特性の整理

(1) 上位関連計画の整理

①第6次小牧市総合計画

平成21年3月策定の「第6次小牧市総合計画」は、計画期間を平成21～30年度とし、“人と緑 かがやく創造のまち”を都市将来像に掲げ、その実現に向けたまちづくりを推進しています。

また、平成26年3月策定の「第6次小牧市総合計画新基本計画」は、行政の経営資源を優先的に投入すべき事業などを明確に打ち出した『市政戦略編』と、これを踏まえつつ、各行政分野の所管課が責任をもって計画的に推進すべき『分野別計画編』で構成しています。

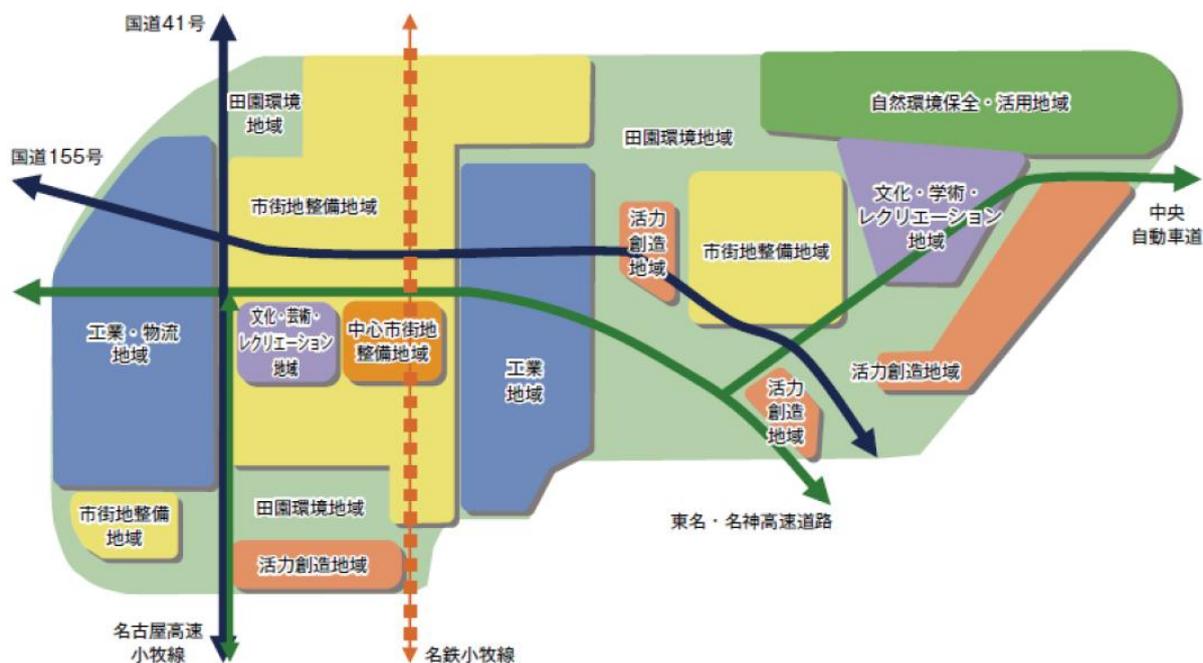
『市政戦略編』では、「こども夢・チャレンジNo.1都市」、「元気創造都市」、「支え合い共生都市」の3つの「都市ヴィジョン」をまちづくりの機軸として掲げ、これら3つの機軸をどのような考え方あるいは方策に基づき実現していくのかを示した「戦略」と、戦略の具体的な実行手段の核となる重点事業を示しています。

表 第6次小牧市総合計画の概要

計画名	計画期間等	将来都市像と都市ヴィジョン
第6次小牧市総合計画	平成21～30年度 前期：平成21～25年度 後期：平成26～30年度	【将来都市像】 人と緑 かがやく創造のまち 【都市ヴィジョン】 都市ヴィジョン1 「こども夢・チャレンジNo.1都市」 都市ヴィジョン2 「元気創造都市」 都市ヴィジョン3 「支え合い共生都市」
基本施策「都市交通」		
【基本施策の目的】 各種の公共交通機関が有機的に連携するとともに、より多くの市民が自ら進んで利用することにより、持続可能な公共交通ネットワークを構築します。		
【基本施策の展開方向1：より効果的・効率的な公共交通ネットワークを形成します】 目的：より多くの市民にとって利用しやすい公共交通の実現を図ります。 手段：①「こまき巡回バス」の利便性を向上させます。 ②デマンド交通の導入を実証実験の結果に基づき検討します。 ③名鉄犬山線へのバスによるアクセスが可能となるよう、新規のバス路線を開設します。 ④名鉄小牧線各駅において交通結節機能を強化します。		
【基本施策の展開方向2：公共交通の利用を啓発します】 目的：交通渋滞の解消や地球温暖化防止による二酸化炭素の排出抑制を図ります。 市民の日常生活を支えるために必要な公共交通サービスの維持・存続を図ります。 手段：①必要に応じ、乗合バス事業者に対して運行経費を補助します。 ②公共交通の利用促進に向け、地域住民に対する啓発活動を推進します。		

(資料：第6次小牧市総合計画 新基本計画)

図 土地利用のイメージ



(出典：第6次小牧市総合計画 新基本計画)

②小牧市まち・ひと・しごと創生総合戦略

平成28年3月策定の「小牧市まち・ひと・しごと創生総合戦略」は、「第6次小牧市総合計画新基本計画」のうち、人口減少克服や地方創生につながる施策をとりまとめた計画です。

少子高齢化の進行等の課題を解決し、人口減少克服を達成するために、人口ビジョンにおいて設定した目指すべき将来の方向を踏まえ、国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」や県の「愛知県まち・ひと・しごと創生総合戦略」を勘案しつつ、4つの基本目標を定めています。

表 小牧市まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要

計画名	計画期間等	基本目標
小牧市まち・ひと・しごと創生総合戦略	平成 27～ 31 年度	【基本目標】 基本目標 1 持続して発展を続ける産業・経済の確立による雇用の確保・創出 基本目標 2 若年世代の希望がかなう結婚・出産・子育て環境の整備（こども夢・チャレンジ No.1 都市の実現） 基本目標 3 都市の活力と暮らしの安心の創造 基本目標 4 訪れたい、住みたい小牧の魅力発信
地域公共交通関連施策		
【基本目標 3 都市の活力と暮らしの安心の創造】 2. だれもが安心して暮らせる地域づくり (3) 暮らしを支える公共交通の構築 ① 持続可能な公共交通ネットワークの形成 都市拠点及び地区拠点へのアクセス利便性の向上をバス交通により図るとともに、名鉄小牧線各駅において交通結節機能を強化することにより、市民にとって利用しやすい公共交通を実現します。 ② 利用しやすい公共交通環境の整備 より多くの方が公共交通を利用するために、バリアフリー対策など、だれもが利用しやすい環境を整えます。		

(出典：小牧市まち・ひと・しごと創生総合戦略)

③小牧市都市計画マスタープラン

平成12年度に、本市の将来像やまちづくりの方針を定めた都市計画マスタープランを策定し、様々なまちづくりに取り組んできました。平成22年に改訂を行った現在の都市計画マスタープランは平成31年を目標とした計画となっていることや、今後、予想される人口減少、超高齢社会の進展などの社会情勢の変化に対応し、方向性を見直す新たな計画づくりが必要になってきました。

こうしたことから、平成28年度には中間見直しを行いました。

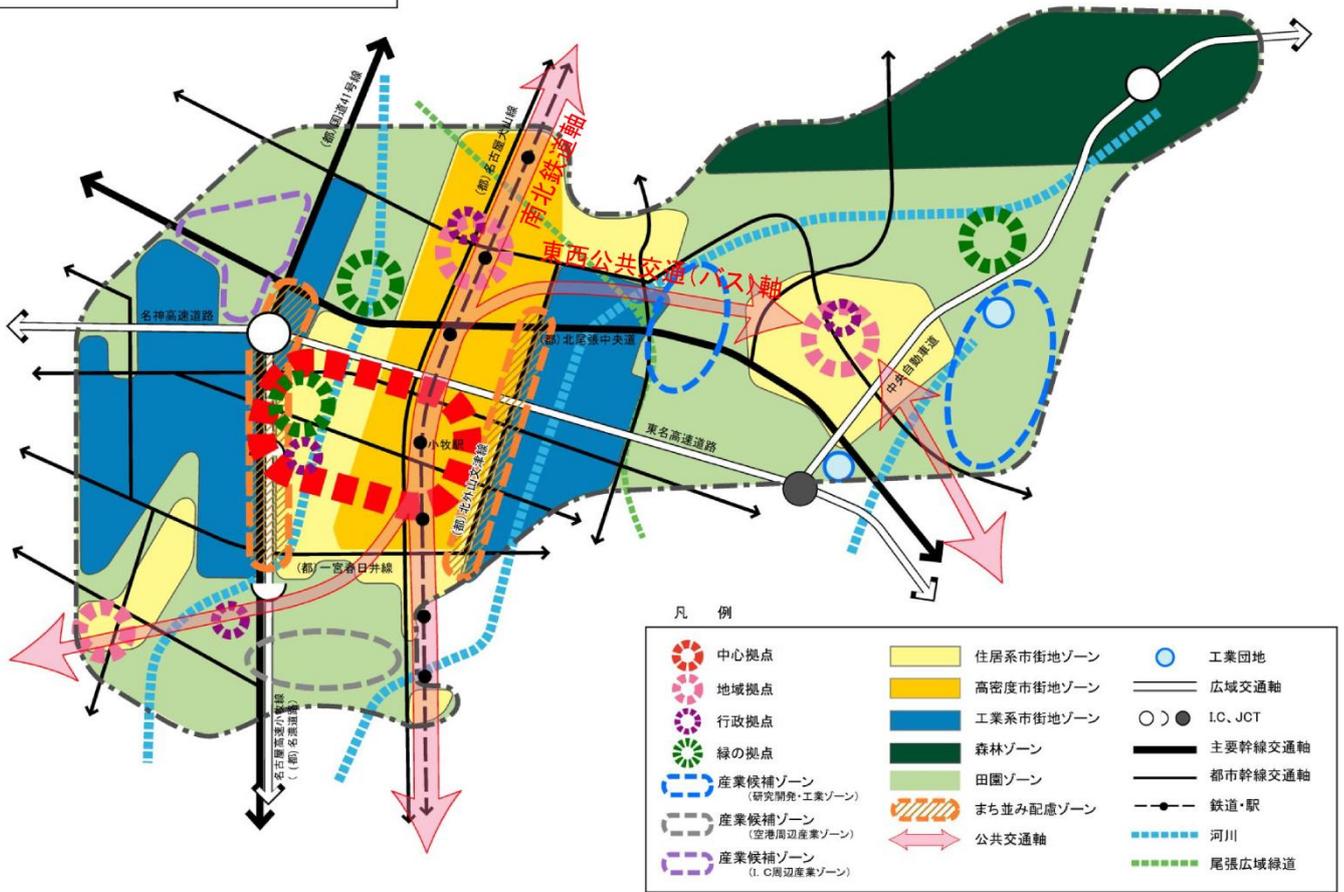
表 小牧市都市計画マスタープランの概要

計画名	計画期間等	基本理念と基本方針
小牧市都市計画マスタープラン	平成 22～31 年	<p>【基本理念】 『活力』あるまちづくり ー 中心市街地の活性化、産業振興ー 『持続発展』するまちづくり ー 安全・安心、環境、コミュニティ（協働）ー 『魅力・美しさ』あるまちづくり ー 歴史・文化、景観、緑ー</p> <p>【都市づくりの目標】 ・小牧の顔にふさわしく、歩いて楽しい魅力あふれる中心市街地の再生と活性化 ・鉄道駅周辺等における地域拠点を中心に、日常生活に必要な機能の維持・集積による暮らしやすさが確保された集約型の市街地の形成 ・自転車や徒歩、公共交通を重視した、自動車に頼らないで暮らせる都市づくり ・小牧の自然や歴史を大切にし、誇りの持てる都市景観、安全・安心な都市環境づくり ・自然と調和しながら、新しい活力を生む産業基盤づくり</p>
公共交通整備の方針		
<p>【①公共交通の利便性の向上】 過度に自動車交通に依存することなく、快適に移動できる交通環境の創出に向け、鉄道・バス等の公共交通の利便性向上を図ります。 鉄道の利便性を高めるため、名鉄小牧線の機能強化を関係機関に働きかけます。 「小牧市地域公共交通網形成計画」の策定を通じ、市民や関係者ととともに、公共交通の確保・維持・改善を図るものとします。 特に、ピーチライナーが廃止された桃花台地区や岩倉市方面と小牧駅周辺の中心市街地とを連絡する東西軸については、バス交通による公共交通軸を形成するため、バスの走行性、定時性の確保、バス停留所の待合環境の向上など、公共交通軸としての機能強化を図ります。</p> <p>【②公共交通の利用促進に向けた公共交通結節機能の充実・強化】 鉄道における交通結節機能の強化を図るため、小牧駅や味岡駅に集散発生集中する鉄道駅端末交通の特性に応じ、バス、自動車アクセス及び乗り換えの充実・整備を進めるとともに、小牧口駅における駅前広場の整備を進めます。 鉄道駅周辺におけるまちなか居住機能や商業機能等の都市機能の集積を図ることで、公共交通の利用促進を図ります。 また、高齢者や障がい者などの移動の安全性を確保するため、鉄道駅でのエレベータ設置や段差の解消を鉄道事業者等に働きかけるとともに、駅から主要な施設への移動経路や駅前広場におけるバリアフリー化を促進します。</p>		

(資料：小牧市都市計画マスタープラン)

図 将来都市構造図

将来都市構造図



(出典：小牧市都市計画マスタープラン)

④小牧市立地適正化計画

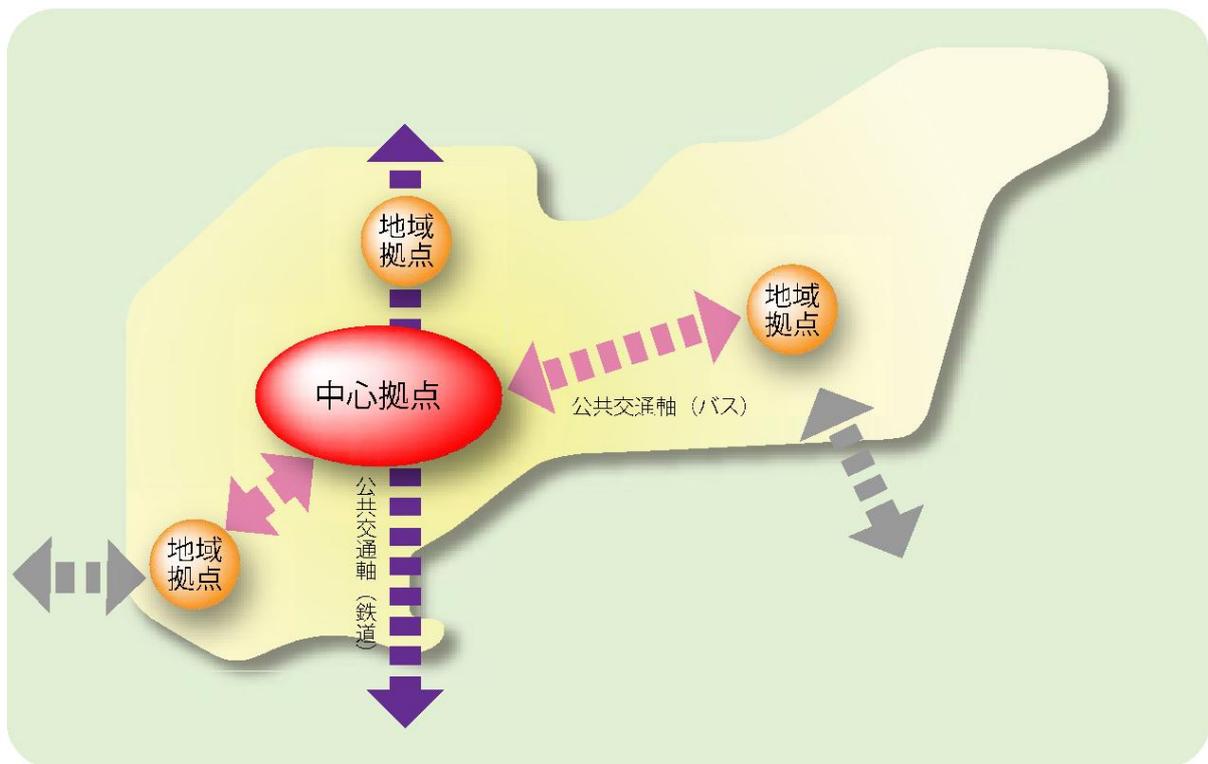
小牧市都市計画マスタープランで示された基本理念や都市づくりの目標をより実現性が高く具体的なものとするため、小牧市立地適正化計画を策定しました。

表 小牧市立地適正化計画の概要

計画名	計画期間等	まちづくりの方針
小牧市立地適正化計画	おおむね 20 年後+α	【まちづくりの方針】 誰もが暮らしやすい生活環境の実現に向け、地域コミュニティの維持・活性化などを図るため、「就労世代（生産年齢人口）なかでも、若年世代（子育て世代、単身者）」の定住促進を進めます。
居住の誘導施策		
【公共交通の利便性向上に関する施策】 ・交通結節点等整備事業（小牧駅西駅前広場、田県神社前駅西駅前広場、市道小牧駅西線、市道小牧市之久田線の整備）【継続】 ・暮らしを支える公共交通の構築（持続可能な公共交通ネットワークの形成、利用しやすい公共交通環境の整備）【継続】		

（資料：小牧市立地適正化計画）

図 都市の骨格構造（イメージ）



（出典：小牧市立地適正化計画）

(2) 地域特性の整理

①小牧市と周辺自治体の位置関係

本市は愛知県の北西部に位置し、北は犬山市、大口町、江南市、東は春日井市、南は春日井市、豊山町、北名古屋市、西は岩倉市に隣接しています。また、名古屋市の北側に位置しており、道路や公共交通網は名古屋市方向へ向かっています。

図 小牧市周辺の鉄道網図



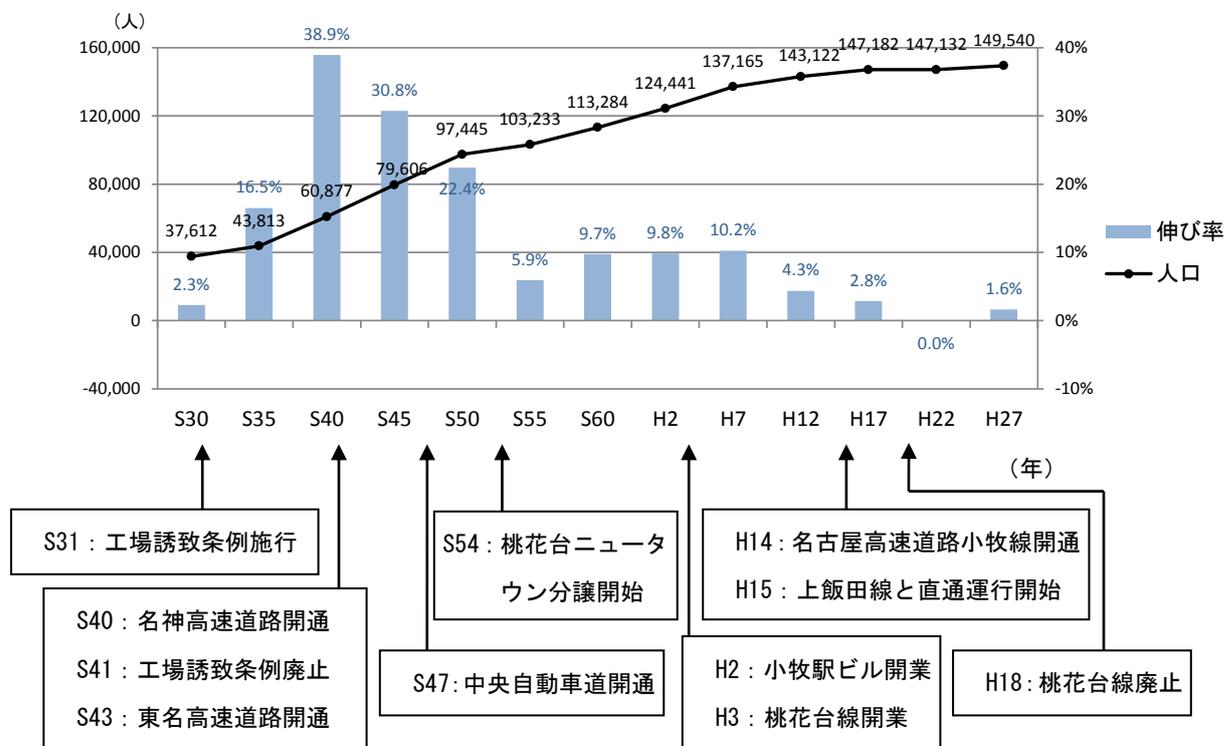
②小牧市内の地形の特徴

市内のうち、名鉄小牧線以西の地域は比較的平坦な地形が多くなっています。一方で、名鉄小牧線以東の地域は丘陵地となっており、比較的坂が多く、勾配が急な地域となっています。

③人口・世帯数の動向

本市の人口、世帯数ともにほぼ一貫して増加傾向にあります。特に、昭和30～40年代にかけて人口増加が顕著にみられ、その後も、微増傾向を続けてきましたが、最近の20年間では、人口、世帯数ともに伸び率は鈍化しています。

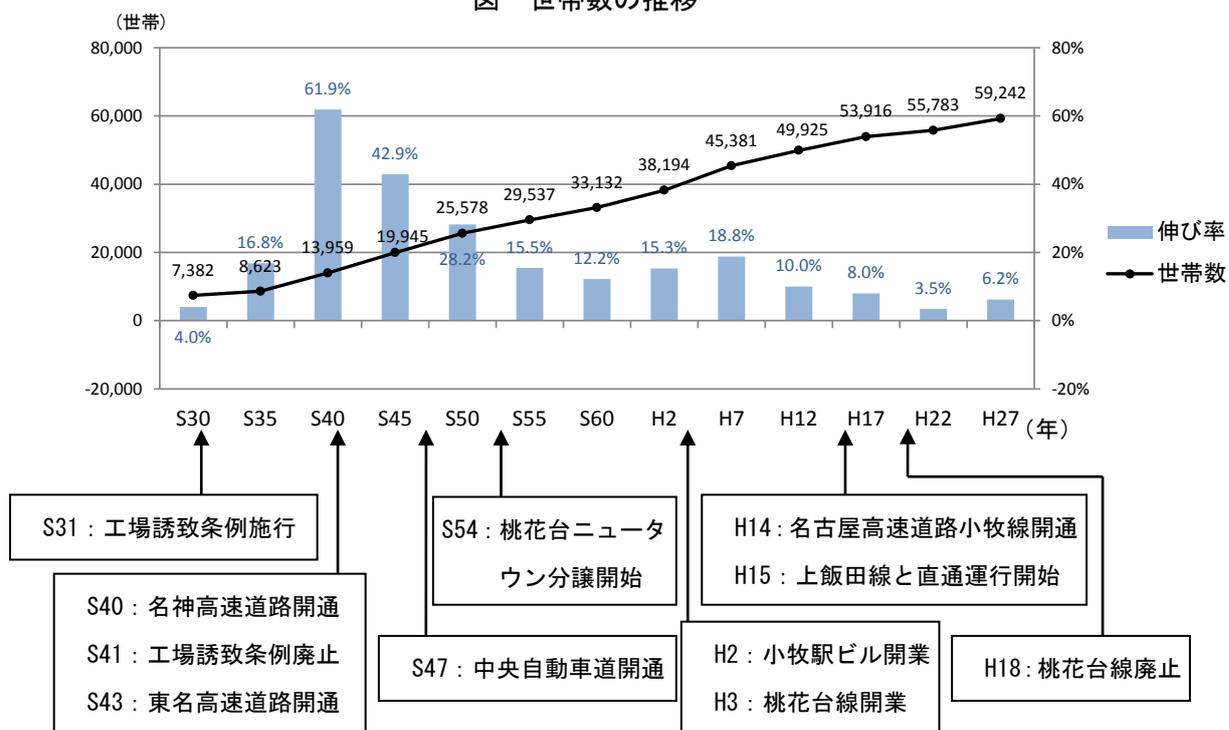
図 人口の推移



(資料：国勢調査 (H27 は速報値))

※現在市域の人口

図 世帯数の推移



(資料：国勢調査 (H27 は速報値))

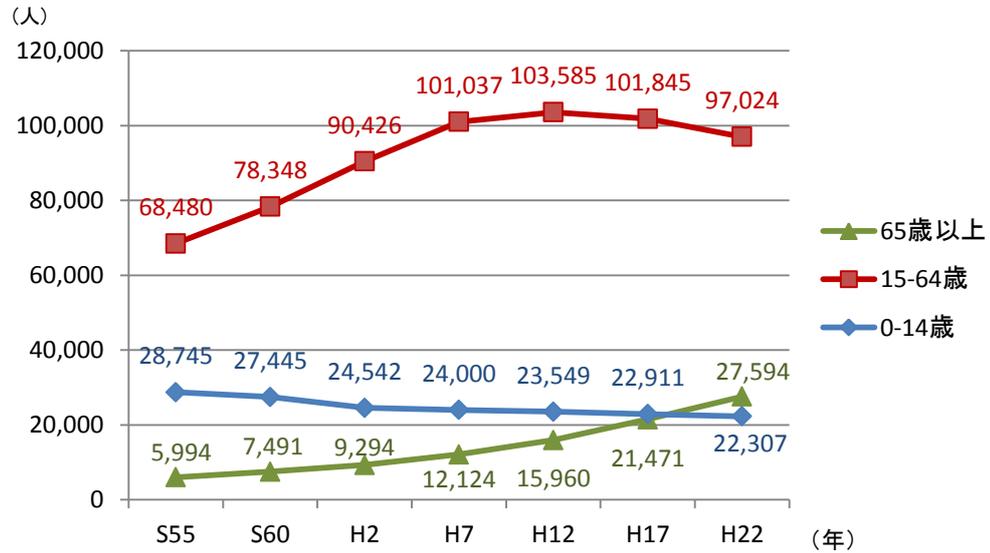
※現在市域の世帯数

④年齢階層別人口の動向

本市の人口を年齢階層別（年少人口：0～14歳、生産年齢人口：15～64歳、高齢者人口：65歳以上）に分けてみると、年少人口は昭和55年以降減少傾向にあり、生産年齢人口は平成12年をピークに減少が続いています。

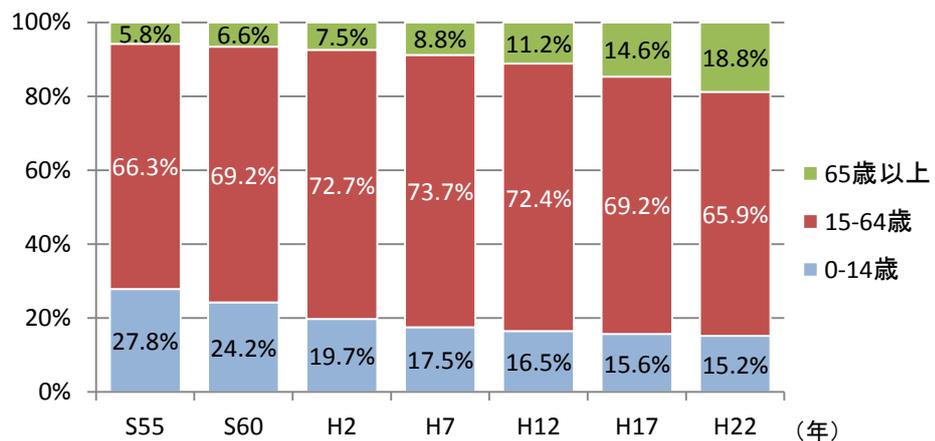
また、高齢者人口は増加傾向にあり、高齢化率は平成22年時点で18.8%となっています。

図 年齢階層別人口の推移



(資料：国勢調査)
※現在市域の人口

図 年齢階層別人口割合の推移



(資料：国勢調査)
※現在市域の人口

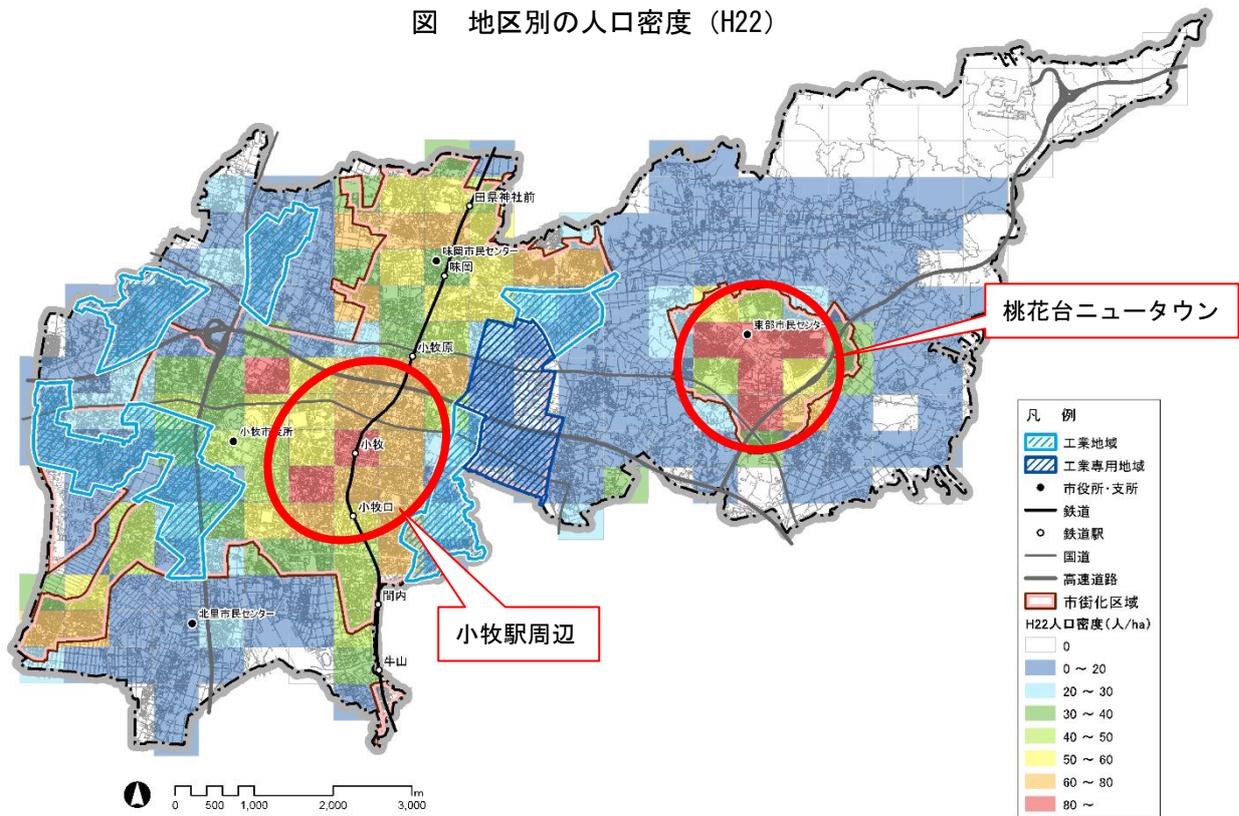
⑤地区別人口・世帯数の動向

本市の人口を地区別でみると、平成22年時点の人口密度は、市街化区域で約44人/ha（工業専用地域を除くと約47人/ha）となっています。さらに詳細にみると、小牧駅周辺や桃花台ニュータウンにおいて80人/ha以上の高密度となっています。

平成17年から平成22年にかけての人口と世帯数の増減をみると、小牧原駅、小牧駅、小牧口駅周辺では、人口、世帯数ともに増加傾向の地域もある一方で、桃花台ニュータウンの一部地域のように世帯数は増加傾向にあるものの、人口は減少傾向となっている地域もみられます。

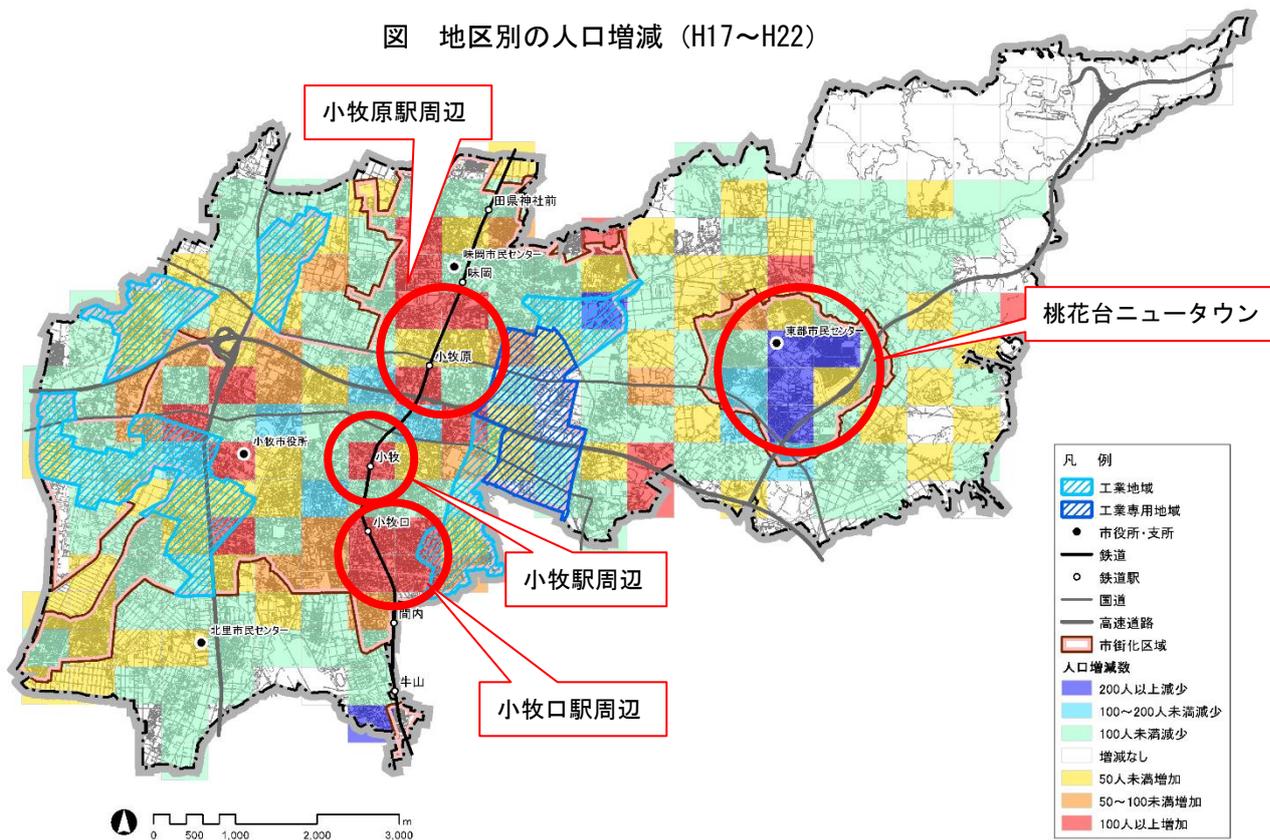
※工業地域及び工業専用地域については、居住者は存在しませんが、立地する工場の従業員等の公共交通利用が考えられるため、合せて図示しています。

図 地区別の人口密度 (H22)



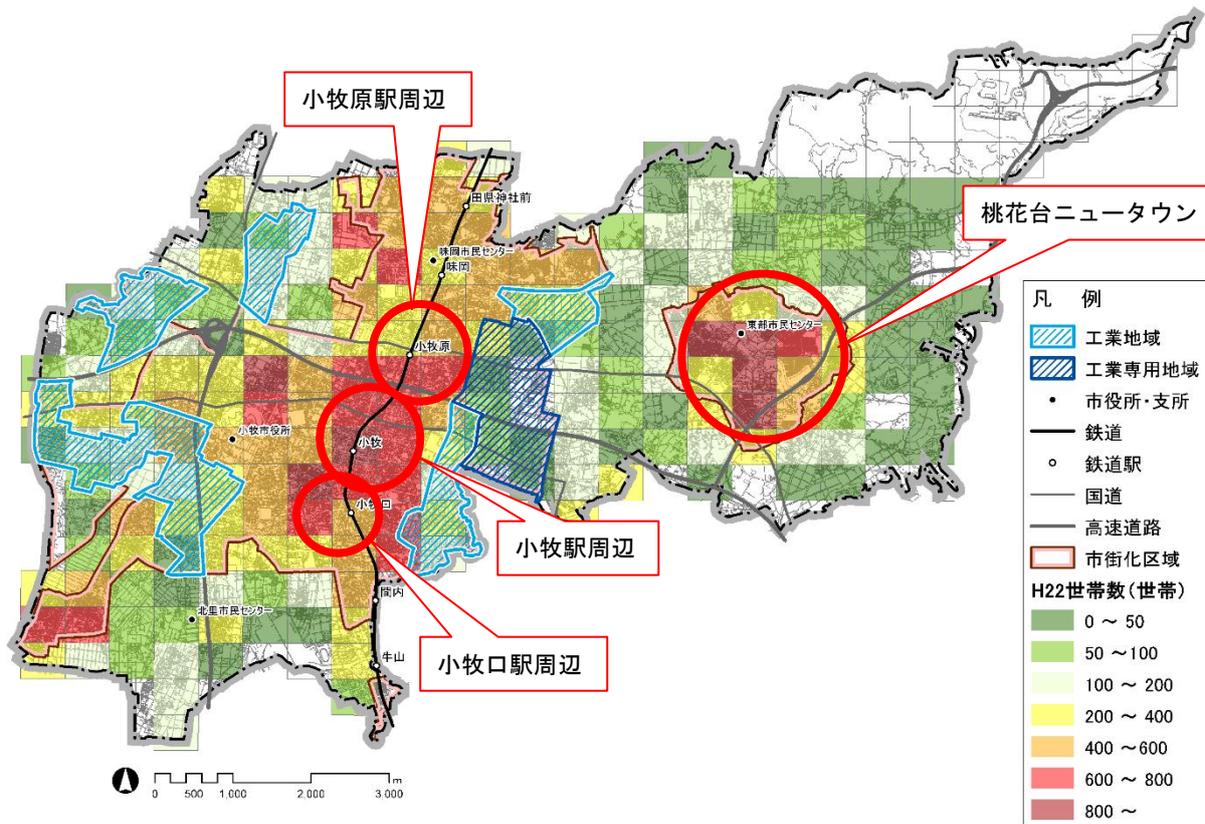
(資料：平成22年国勢調査)

図 地区別の人口増減 (H17~H22)



(資料：国勢調査)

図 地区別の世帯数 (H22)



(資料：平成 22 年国勢調査)